

令和5年度 未来を創る学力向上支援事業に係る小学校英語教育推進校公開授業

令和6年2月6日（火）開催 竹田教育事務所

2月6日（火）に豊後大野市立新田小学校にて、標題の公開授業及び事後研究会を行いました。授業参観や協議を通して、学習到達目標の達成に向けた授業改善や効果的な指導の在り方について意見交流を行いました。

<研修内容>

(1) 事前説明「授業観察の視点」

- ①児童が「話すこと」(発表)に主体的に取り組むために、活動はどうあるべきか
- ②本単元の学習や本時の活動をふまえて、小中連携はどうあるべきか

(2) 公開授業 単元名「自分の家族にあこがれの人を紹介しよう」 (NEW HORIZON Elementary 5

Unit 8 Who is your hero?)

授業者:後藤 久美子 先生 (5年:外国語)

Kalista Pattison

(3) 事後研究会「授業実践の振り返りと今後に向けて」

指導助言者:田代 和馬 主幹兼指導主事
(大分県教育庁義務教育課)

公開授業



←児童は、英語で進む授業にも意欲的に取り組んでいました。普段の授業で、英語を聞く力が付いていることがわかります。

→「ヒーローインタビュー」に挑戦しました。スモールトークで学んだことやチャンツで練習したことを生かして、会話を楽しんでいました。



イングリッシュルームでの授業で、授業者の先生方はICTを効果的に活用したり、板書を工夫したりして、子どもたちの主体性を引き出していました。また、ALTの先生とのチーム・ティーチングでしたが、二人でモデルを示したり、個別に児童の支援をしたりするなど役割分担が明確で、良いコンビネーションでした。

事後研究会(グループ協議)



授業観察の視点について3~4人グループで協議しました。

事後研究会(全体共有・講評)

各グループの代表の方の発表では、それぞれの視点について、様々な角度から建設的な意見が多く出されました。



「児童が話す活動に主体的に取り組むために必要なこと」や「話すことに重点を置いた小中連携を行う際のポイント」について話し合いました。また、授業観察の視点以外にも「中間指導」について協議し、より効果的な中間指導の在り方について考えました。



協議の中では、新田小学校の先進的な研究内容や、新田小卒業生の三重中学校での活躍も話題になりました。

事後研究会のまとめとして、小学校段階での知識・技能の定着が大切であること、その授業で身に付けさせたい資質・能力を意識して中間指導を行う必要があることを確認しました。

(参加者の感想)

- ・先生が笑顔で楽しそうに授業していたので、子どもたちも元気に活動していました。間違いを恐れず大きな声で元気に活動していたのは日頃の指導が素晴らしいのだと思いました。
- ・確かな知識・技能を身に付けさせるために、普段の学習で小さな間違いをそのままにしないことの大切さがわかりました。また、中間指導については、言語面・内容面、どちらでも行う必要があることを理解しました。
- ・小学校から中学校に繋ぐにあたって、安心感をもって中学校に上げられるよう、小学校の間に力をつけていくことの大切さを感じました。